

MESCOは、OUTOTEC社の銅陽極鑄造機の日本代理店として、国内の銅製錬所に納入しておりますが、この度、

OUTOTEC社が開発した電気加熱式熔銅桶(Electric Launder)の日本での販売を開始いたしました。この電気加熱式熔銅桶は、2005年に現BOLIDEN GroupのHarjavalta製錬所にて試験操業を開始し改良を重ね製品化したものです。すでに、アジア、アフリカでの実績もあり、日本に於いても省エネの観点から導入の期待の高い製品です。主な特徴は、

- 1) 消費エネルギーが低い。(保温時: 5kw/m、鑄込時: 1kw/m) LNG加熱の1/10以下。
- 2) 密閉タイプであるので、作業環境、安全性が高い。
- 3) 全自動の温度制御機能を有しており、通常操業でのメンテナンスは必要ない。
- 4) 桶は常に1100℃以上に保たれており、耐火物の寿命は大きく伸びる。

その他、安定した熔銅温度、低い鑄込開始温度が得られるなど、溶解炉、鑄造機を含めた総合的な省エネ、省コストが期待できます。

この電気加熱式熔銅桶は、製錬所だけでなく、銅加工用の熔銅にも適用可能であり、広いマーケットが期待されます。

詳細は、実績写真、動画を用いたプレゼンテーション資料を用意しておりますので、MESCO営業マンに御用命ください。



運転中の電気加熱式熔銅桶



Outotec
More out of ore
電気加熱式熔銅桶外観

あとがき

バトンタッチ

本紙 Engineering Quarterly (営業四季報) は1990年(平成2年)5月に創刊号として発行しました。創刊当時の社長は石須社長で創刊号の発行にあたり石須社長より寄稿頂いた事今でも鮮明に記憶しております。以降当社社長は、大原社長～酒匂社長～斎藤社長～伊藤社長～村口社長と続き現在の柴田社長まで本紙は継続しております。本紙は当社の営業内容を実績ベースで四季報としてタイムリーに顧客にPRする事を目的にしたもので、営業の小道具として小職が企画、編集、発行を続け今日に至っています。とかくエンジニアリング会社の業務内容はなかなか一般的にご理解頂けない事が多くあり、本誌にて当社実績を説明し、手頃な営業の小道具として使って来ました。この度国内営業部長を次の方にバトンタッチしました。これまで本紙発行につきまして原稿等々ご協力賜りました各位に感謝御礼申し上げます。国内営業部長職は次の方にバトンタッチしましたが、本紙の継続云々はバトンタッチする考えはなく、逆に新部長の新しい方針の基、本紙に拘ることなく今の時代にマッチした新モデルのPR誌らを期待する者です。

継続は力なり、営業は永遠なり。

顧客各位には今後ともMESCOを宜しくお願い申し上げます。

(橘 記)

Engineering
Quarterly

平成21年 4月1日 発行 Vol.46
発行責任者 国内営業部長 南 秀男
(minami@mesco.co.jp)
発行担当者 国内営業部 正木 孝信
(masaki@mesco.co.jp)

明日を担う技術の MESCO

三井金属エンジニアリング株式会社

本社 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7F 15階 Tel 03(5610)7831 Fax 03(5610)7861
国内営業部 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7F 14階 Tel 03(5610)7840 Fax 03(5610)7863
東京支店 〒273-0024 千葉県船橋市海神町南 1-1667-1 Tel 047(432)0131(代表) Fax 047(432)0127
東北支店 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地 76 Tel 0178(28)2041(代表) Fax 0178(28)5251
神岡支店 〒506-1114 岐阜県飛騨市神岡町鹿間 1-1 Tel 0578(82)3539 Fax 0578(83)2862
九州支店 〒836-0817 福岡県大牟田市浅草田町 3-1 Tel 0944(57)3190 Fax 0944(54)5539

MESCO

Engineering Quarterly

2009年4月 Vol.46

国内営業部

日本化学工業株式会社殿 シリカ製造設備 受注

MESCO国内営業部は大手化学工業メーカーである、日本化学工業株式会社殿から、シリカ製造設備を受注しました。

日本化学工業株式会社殿は、無機化学事業の主力生産拠点である同社愛知工場でシリカ製品を中心に生産能力を倍増する計画であり、これら相次ぐ生産拡充によって伸長する需要に対応し、事業基盤のさらなる強化を図るものです。この度当社が受注したシリカ製造設備は同社西淀川工場生産していたものを順次愛知工場に移設集約する工事であり、MESCOは過去にも同社製造設備に関わっており、その経験を生かしシリカ製造設備以外の製造設備についても受注する見込みであります。過日建設予定地で関係者による安全祈願祭が執り行われ、当社から佐藤取締役エンジニアリング事業部長が出席しました。

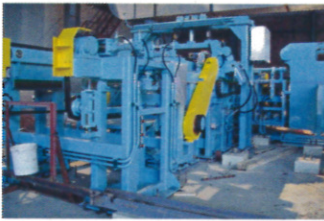


玉串奉典する佐藤事業部長

日本化学工業(株) 殿 愛知工場

世界各地で活躍する **MESCO** 製各種製錬設備の現地派遣指導員

独自技術ならびに品質にて定評のある**MESCO**銅、亜鉛の電解工場向け自動ハンドリング設備は、日本国内のお客様のみならず世界中のユーザーに続々と納入され稼動しております。最近の納入先としては中国の雲南銅業殿、カザフスタンの **Kazzinc** 殿、米国の **Nord Resources** 殿、中国の株州冶錬殿ならびに紫金有色金属殿、またアフリカ諸国の鉱山会社等が含まれます。また、設備の納入には現地での据付ならびに試運転調整のための指導、現地スタッフへのトレーニングがつきものであり、現地でのスムーズなプロジェクト遂行、立上の支援のため、世界各地で**MESCO**の経験豊富な技術者が派遣され活躍しております。技術的な面だけではなく、それぞれ各地固有の習慣や環境にも適応しながら本来の目的であるプロジェクト業務を遂行してお客様に貢献し、高い評価を受けております。



カザフスタン据付中のアノード矯正機



−40℃の過酷な環境にもめげず活躍する技術者

現地スタッフと間違えられ中国語で話しかけられることも多い当社技術者



中国にて据付中の銅剥取機

MESCO の培われた経験と技術が広い分野で高い信頼を得ています。

東北支店

米軍八戸油槽基地燃料施設改修工事 完成

MESCO東北支店は、東亜建設工業㈱・鈴木建設工業㈱殿より米軍八戸油槽基地燃料施設改修工事を受注し、今年2月完成しました。本工事は、八戸油槽基地から航空機用燃料を約30km離れた米軍三沢基地までタンクローリー及びパイプラインで輸送する貯油施設で老朽化した防油堤の更新に伴い、7基のタンクの油面レベル警報装置設置及び燃料配管の改造工事を操業運転する中で、10ヶ月に亘る長期の施工でありましたが、事故災害もなく、無事完工しました。

また、並行して八戸馬淵大橋に添架されている送油パイプラインφ100mm×300m×2本の塗装及び配管改修工事を厳格な米軍仕様の中、徹底した品質施工管理の下で施工しました。

MESCO東北支店は、20数年来この種の工事経験を積み重ねてきており、得意とする分野の一つであります。

今後も**MESCO**東北支店は、民間の石油油槽所や米軍燃料施設関係の工事分野において、より一層の技術技能の研鑽を図り、顧客要求に応えていきます。



防油堤改修に伴う配管更新工事

九州支店

三池製錬株式会社殿向け 高圧フィルター設備工事 完成

MESCO九州支店では、三池製錬殿熔錬工場敷地内に新MF炉設備の一部として高圧フィルター設備を受注し完成いたしました。

この設備は、溶融炉より発生する亜鉛原料（粗酸化亜鉛）の処理設備の内、塩素等のハロゲンを除去する設備です。プレス本体建屋工事、原料倉庫工事、機器据付工事、溶解タンク製作据付工事、ベルトコンベアー搬送設備、配管工事、電気設備自火報設備からなり企画・設計・施工を一括で受注いたしました。

昨年7月より着工し三池製錬殿のご協力のもと今年1月末日予定どおり竣工しました。

MESCO九州支店は三池地区企業集団工場群の企画、建設に今後も勤めていきます。



高圧フィルター設備

神岡支店

東京大学宇宙線研究所殿向け XMASS 実験設備電気工事 受注

MESCO神岡支店は、昨年3月にXMASS実験のための新たな空洞(縦15m×横21m×高さ16m)の開削を完成させ、引き続き内部仕上げ工事としてラドンを除去する為の岩盤面にシート張りと密閉度を高めた間仕切り工事と実験に必要な電気設備工事を行っています。本実験設備はいよいよ今年の夏から観測を開始する予定です。

今後とも**MESCO**神岡支店は宇宙線研究所殿の実験設備に挑戦して行きます。

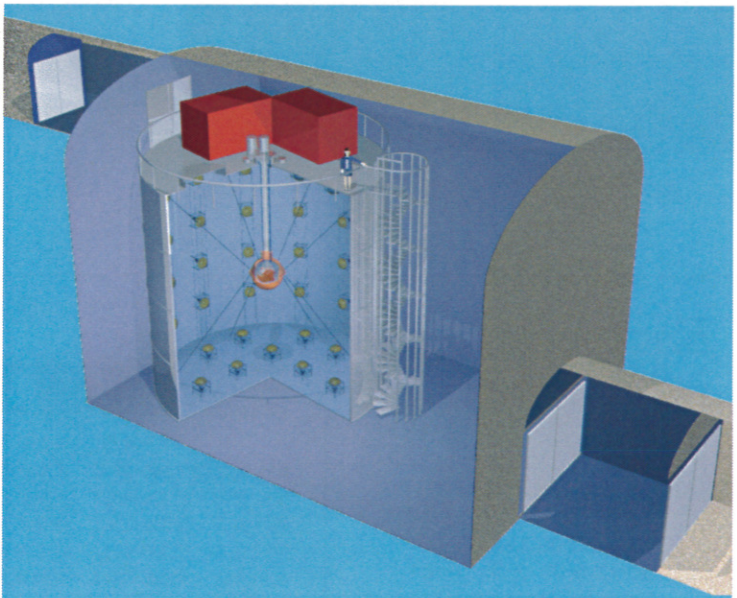
XMASS 実験

XMASS (エクスマス) 実験とは、液体キセノン(約−100℃)を用いてダークマターを直接探索することを目的としています。

ダークマターとは、光を発せず重力的な観測から存在が示唆される謎の物質で、新しい素粒子であるとも考えられています。

また、ダークマターは宇宙の物質・エネルギーの約23%を占め、現在の宇宙の構造を形作った源と考えられています。直接検出に成功すれば、宇宙の成り立ちの謎の究明や新しい素粒子の発見にも結びつきます。現在、神岡の地下施設に約1トンの液体キセノンを用いたXMASS検出器の建設を行っています。

(東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設殿提供)



図はXMASS実験装置の完成予想